

カトリック 仙台教区報

2007年3月4日 No.174
 発行
カトリック仙台司教区
 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
 Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378
 発行責任 広報委員会
 URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

あなたは教会のために 何ができますか？

第5回仙台教区活性化研修会

教区活性化研修会は、2003年、瀧部司教のときに始まり、今回で第5回目。今年のテーマは、「教会とは（教会のために）自分は何ができるか」。平賀司教の講演とグループでの分かち合いを中心に各県1会場で開催された。

岩手県は、四ツ家教会で2月11日（日）に、福島県は、郡山教会で2月12日（月）に、宮城県は元寺小路教会で2月18日（日）に行われた。青森県は、3月11日（日）本町教会で開催される予定となっている。

平賀司教講演のレジメをもとにまとめましたので、参加できなかった方も、ぜひ一読の上、黙想の一助としてください。

教会とは（教会のために）

自分は何ができるか

「キリストの弟子 わたしたちは どういう者なのか」を確認し、喜びをもって受け入れましょう。

1. 主イエスの呼びかけ（福音書から）
 あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である。（マタイ 13 14）

あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのだ。あなたがたが出て行って実を結び、その実が残るようにと、またわたしの名によって父に願ったものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたを任命したのである。（ヨハネ 15・16）

洗礼を受けた私たちは、キリストと結びわたしたちの心です。自分の意志で洗礼を受けたと想っているかもしれないが、神が先に私たちを選んで、

2. 使徒書（書簡から）
 天地創造の前に、神はわたしたちを

「光の子としてくださったのです。私たちがこれを受け止め、新しいのちに生きるものとなったらいのびのびと」

弁護者 すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。（ヨハネ 14・26）

聖信の秘跡によって私たちが新しいのちに生きるものとしていただき、聖霊によって導いていただいているのです。



岩手県・四ツ家教会での活性化研修会

愛して、「自分の前で聖なる者、汚れない者にしよう」と、キリストにおいてお選びになりました。イエス・キリストによって神の子にしよう、御心のままに前もってお定めになったのです。…わたしたちはこの御子においてその血によって贖われ、罪を許されました。（エフェソ 1・4 5 7）

私たちに与えられている約束は、天地創造の前から準備されていたのです。

あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから…互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。…キリストの平和があなたがたの心を支配するようになさい。この平和にあずかるために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。（コロサイ 3・12 13 15）

神は、私たち一人ひとりをかけがえないものとして、選ばれたのです。そして、キリストのからだに結ばれた共同体（教会）に加えていただきました。

3. 使徒言行録から
 彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。…（彼らは）民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。（2・42 47）

使徒の教えに忠実であるか（頭を使つて）

聖書、カトリック教会の教え、などの学びの機会はあるか？

祈ることとどれだけ熱心か（心を使つて）

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられること（1テサロニケ 5・16 18）

相互の交わり（体を使つて）
 互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを皆が知るようになる（ヨハネ 13・35）

私たちが、キリストの弟子であることを表す方法は、教会共同体の相互の交わりの姿です。

「パンを裂くこと」「エウカリスチア（頭心の総言）」

「典礼は教会活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る泉である。」

典礼自身は、『復活の諸秘跡』に満たされた信者が、『愛によって一つに結ばれる』よう励まし、『信仰によって知ったことを、生活において保つ』よう祈



仙台教区の司祭人事異動 にあたって

司教 マルチノ 平賀 徹夫

去る1月29日(月) 4月の新年度の司祭人事異動を発表いたしました。今回、任地を移っての異動をお願いした司祭方は3人で、ほかに担当地域の組み換えや職務の交代ということで、全部で12人の司祭方にかかわっていただく異動となりました。

教区内の司祭の数は限られていますし、さらに現役を引退される方のことも覚悟していかなければなりません。一方では、今まで司祭方が担当してこられた職務や仕事の種類、内容、量などはそのままあり続けるわけですから、今までのままを続けようとするのは現実に無理ということになっていきます。

今からちょうど20年前の1987年、日本のカトリック教会は第1回福音宣教推進全国会議を開催し、司教団は「ともに喜びを持って生きよう」と題するメッセージを発表しました。その中に「教区、小教区を、そこに属する信者のためだけの共同体から、その地域に住む全ての人々とともに福音的に生きようとする共同体に変えなければなりません。そのためには、信徒、司祭、修道者、司教が、それぞれに固有の役割を明確にしながらかつ協力していかなければなりません」という一節があります。

仙台教区司祭評議会や宣教司牧評議会等でこれまでも、司祭間の協力、信徒・修道者・司祭の間の協力、近隣の小教区間の交流や協力がテーマとして取り上げられてはきましたが、まだあまり実りを見ているとはいえない状況です。信徒、司祭、修道者、互いの信頼と尊敬を土台とし、それぞれに固有の役割を明確にしながらかつ協力する、ということがますます緊急のこととなってきました。(司祭異動 5P.)

「喜び…信仰を、掟や教義を中心にしたとらえ方から、「生きる」といふことも、ともに喜びをもって生きることを中心としたとらえ方に転換したいと思えます。というのは、信仰生活は私たちとともにいてくださる神のみ前で、人々とともにキリストの福音を信じる「喜び」に生き

自分の今までの体験から理解できる、心を動かされるお話でした。皆さんと話し合っって出来ることから始めたいと思えます。

る。また、聖体祭儀によって行われる主と人々との契約の更新は、信者をキリストのせまる愛にかりたてて燃やすのである。(第2バチカン公会議『典義』10)

ヨハネ・パウロ2世は回勅『教会にいのちを与える聖体』の中で、「永遠のいのちは、すでに今、地上で味わっている」と教えています。

4 『二十一世紀を歩む教会共同体』(菊池功神父) 現新潟教区司教著) から学ぶ

ファクション的な意味合いでの信仰? (p.25~31)

「p.29」毎年こんなに洗礼を受けているのに…いつも同じ人数くらいしか来ない。」



宮城県・元寺小路教会での活性化研修会

・各小教区では? 仙台教区の現状は?

00人くらいが洗礼を受けているが、信徒数は減少している。私

たちが、新しい信徒との交わりをどれだけ大切にしているかが問われます。

共同体の神的要素 人的要素 p.41~46)

「p.44 信徒だけで、神父が…」

福音と現実との乖離(p.46~47)

「福音を現実と近づけるために妥協するのか、現実を福音化する姿勢を保つのか…私たちは世にあっても、教会にあっても、福音と現実の乖離に悩まされています。」

・憲法改正の動きの理由…「現実の社会に合うもの」と考えるのか

「理想に近づけよう」と向かっていくのか。

救いあつとは?

「p.94 すべての人が共同体の中

でそれぞれに生かされなければなりません。…本当に生き生きとした共同体は、人々の中で生かしていく力を絶対に持っていると思つたのです。人を生かすことができない集まりがあつたらそれは本当の共同体ではないと感じます。」

共に生きる」との三つの側面

「p.101 空間と時間と心を共有することです。心の側面を忘れてはいけません。」

司教団メッセージ① (p.122~125)

『ともに喜びをもって生きよう』(1987年・第1回福音宣教推進全国会議にこたえて)

「私たち司教をはじめとして、神の民全てが、教会の姿勢や信仰のあり方を見直し、思い切った転換を図らねばならない」という結論に達しました。その転換の中軸は、次の2つの言葉「ともに」および「喜び」で表すことができると思えます。」

「ともに」…先ず第一に、社会の中に存在する私たちの教会が、社会とともに歩み、人々と苦しみ分かち合つていく共同体となることです。…

5. 終りに…

「一人ひとりの方が、信仰を見つめ直し、その原点であるイエスのことばやイエスの思いをよりよく理解するとき、つまり一人ひとりが本当に信仰によって生かされるようになる」とき、自然と教会共同体作りが始まると確信しています。マニュアルでは教会共同体は作れないのです。(『二十一世紀を歩む教会共同体』 p.5)

このキリストの体教会に集められたわたし(たち)は、教会のために何をすればいいのかわからないか、できるか、するかと、いつにいつです。

参加者の声(若手県)「一人ひとりの方が、信仰を見つめ直し、その原点であるイエスのことばやイエスの思いをよりよく理解するとき、つまり一人ひとりが本当に信仰によって生かされるようになる」とき、自然と教会共同体作りが始まると確信しています。マニュアルでは教会共同体は作れないのです」とのこ

教派を超えて共に祈る

新年合同礼拝と合同祈禱会

キリスト教の教派を超えて、ともに祈り一致への歩みを進めようと、仙台キリスト教連合の呼びかけで、今年も新年の合同礼拝と祈禱会が開催された。

新年合同礼拝は、1月1日(月)カトリック元寺小路教会で行われ、「み恵みがあふれるような生き方をしよう」をテーマに三浦謙牧師(日本福音ルーテル仙台・鶴ヶ谷教会)が説教。

第1回新年合同祈禱会は、1月21日(日)、日本基督教改革派仙台教会で、「使徒の使命」をテーマにマルコ・アントニオ神父が説教。第2回新年合同祈禱会は、カト

リック北仙
台教会で、
「誰が隣人
になった
か」をテーマに、山
下誠也牧師(日本バ
プテスト連盟仙台教
会)が説教を行った
「写真」。



新年合同礼拝と祈禱会に

参加して

元寺小路 千葉 賀行
元寺小路教会での元旦合同礼拝では、福音ルーテル鶴ヶ谷教会の三浦牧師が説教で「カトリックの教会法を読む機会があったが、プロテスタントとの違いの大きさに戸惑いを感じた。しかし教会一致

の祈りのうちで神様の恵みがおおつてくださる時、いつ、どのような形かわからないが、実現することを固く信じています」と話されたのが印象的だった。

参加されておられ、司会者からマイクを向けられ「三浦先生の調べられた教会法はいつ頃のものでしょうか、新教会法は相当に変わってきています」と話された。このような話題がきつかけで今後、牧師さんと神父さんが教会法などについて信徒も参加できる話し合いの場がほしいと思った。

18日、25日)におこなわれる合同祈禱会の今年のテーマは「耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてください」であり、教皇様は「すべてのキリスト者は霊的な難聴から解放されて神のことに耳を傾け、それを他の人に伝えるようになる」と話されています。

塩と光

「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストのことはを聞くことよって始まるのです」(ロマ10・17)。わたし

典礼の霊性を深める
司教神学顧問 佐々木 博
「みことばの霊性を生かす」
第一バチカン公會議が目指した典礼改革によって、典礼における聖書のことは重要性について再確認しました。「信者に神のことは食卓の富を豊かに与えるために、聖書の宝庫を今まで以上に広く開かなければならぬ」(「典礼憲章」51項)。そのため、「ミサの」ことは「典礼」において朗読される聖書の箇所は、三年の周期で聖書の全体が読まれるように配分されまし

ただ、現実はまだまだみことばを十分に理解し味わう段階に達していないのが、実情と言えます。特に、殆どの教会で使用している「聖書と典礼」は、日曜のミサの朗読箇所のみ限定してありますので、なかなか聖書全体のつながりが見えませぬ。つまり、神のことはの理解には、聖書全体に示されている「救いの歴史」の大きな変遷を踏まえることが必要です。ですから、「聖書と典礼」の朗読箇所と最後の頁に掲載されている「今週の聖書朗読」に従って、毎日必ず自分の聖書を開き、朗読箇所

が聖書のどこにあるのかを確認することが大切です。また、それぞれの教会で、聖書を系統的に学ぶプログラムを実施し、「みことば教育」を充実させることが、実りある典礼への大切な準備となります。みことばによって育てられる霊性こそが、典礼の霊性の中心的土台なのです。

なぜなら「ことはの典礼」は、ミサを支えている大切な柱であり、「感謝の典礼」への重要な橋渡しだからです。

合同礼拝でも祈禱会でも、終わった後のお茶を前にした歓談のひとときがまた楽しみ。ここで少し寂しいのはカトリックの方々の参加が少ないことです。



殉教者の心に感動・・・！

藤沢町民劇場 森に消えた十字架「仙台公演

日本中の教会が「殉教者を想い、共に祈る週間」として、ペト口岐部と187殉教者列福に向けて、祈りをささげている2月17日(土)、宮城県民会館で「森に消えた十字架」の公演が行われた。

その日の朝早く藤沢町を出発した劇団員約60名は、午前中にリハーサルなどの準備を済ませ、午後2時の開演に備えた。全席自由ということもあって、正午を過ぎたころから入場を待つ人の列ができた。入場者数は、約900人、中

劇団の団長であり、脚本を書いた皆川洋一さんは、「この劇をぜひ長崎で、そしてローマで上演したい」と挨拶し、満場の拍手を受けた「写真」。



には、わざわざ東京から駆けつけてくださった方もあった。当時、仙台藩の製鉄場のあった大籠の地は、キリシタンが多く、住民は身分の違いを超えて互いに助け合う平和な村であった。

藩命で、キリシタン狩りに来た役人の厳しい取り調べに、平和な村が迫害の嵐にほんろつされ、子供たちまでもが巻き込まれる。その中であって、当時の教会共同体の家族的な温かさと一緒に、信仰の強さが劇中から伝わってきた。

殉教者聖ゲオルギオの

フランチスコ修道会

修練者 Sr.高橋のあ

さまざまな出来事や人々の出会い、家庭での祈りの雰囲気などを通して、神様は多くの恵みを与えてくださいました。その中で神様はいつも共におられ、私たちを見守ってくださいと信じていられたことは幸いでした。

勤めのうちに参加し、祈りの中で過ごした黙想会は、神様に力づけられたことを感じた恵みの時でした。その時、私にはこの道があるのではないかと、という思いが浮かんだ

招きにごたえて



ことを覚えていきます。すべてを神様と共に、神様のためにという生活を送る修道者の方々の祈りの姿や、あたたかな人柄、聖人の生涯からも影響を受け、修道生活により魅かれていくようになりまし

た。将来への漠然とした不安を感じながらも、いつかは神様にすべてをゆだねられたら、という願いを持って過ごしていた日々には、心の落ち着きと静かな喜びがありまし

た。

修練期を過ごす今、修道共同体での祈りと働き、神様と人々に心を開いていくことの困難さ、誓願についての学びなど、多くのことを周りの方々の支えの中にあって体験しています。イエス様とより親しくなるために、みことばに耳を傾けると同時に、そのためにはどうしたらよいのですかと

主に問いかけ、必要な恵みを願う日々です。神様が与えてくださった召命の恵み、支えてくださる多くの方々へ感謝し、信頼を持ってイエス様と共に歩んで行きたいと思っています。

殉教者を想い、共に祈る週間

～ 仙台教区各教会の取り組み～

「殉教者を想い、ともに祈る週間」(2月4日～11日)の手引きが、殉教者列福調査特別委員会(委員長：溝部高松司教)から昨年11月に配布された。



は手引きに沿って聖書の朗読および解説の朗読を聞き、しばらく黙想したあとに祈願をささげる。締めくくりには、「列福を求める祈り」を全員で唱え沈黙のうちに退堂。また、中央協議会ホームページから引用した殉教者の紹介もプリントして配布。毎回約40名が参加している。

会津若松教会 (今田 潔)

私どもの教会では、小冊子50冊を一家に一冊ずつ持ち帰って祈り合った。現代の教会が直面している困難な状況を殉教者の方々の信仰から学ばせていただいた。また、聖書100週間グループでは、ペト口岐部の生涯を描いた「熱砂と波濤」のビデオを見て彼のゆるぎない信仰のすごさを感じ取った。3月4日、11日の両日、主日のミサでは、全員で、「列福を求める祈り」を唱え、これはこの1年間、月の偶数週のミサ閉祭後にも続ける意向である。

日本の教会の先達の生き様と霊性に深い感銘を覚える。このような厳しい時代に同じ日本で信仰に生きて彼らの生き様から、現代の教会へのメッセージを私たちはもっと学ぶべきである。

元寺小路教会

教会委員会では2月4日から3月25日までの毎主日計8回、8時50分から15分間、「手引き」に収められている8日間の黙想と祈りのプログラムを小聖堂で行うことにした。写真

「。プログラムの最初に、殉教者がこよなく愛した聖母マリアへの祈りをおこなない、その後

一本杉教会

2月18日の集会祭儀の中で、第2日目の解説を読み、小グループに分かれての分かち合いを行った後、祈りを唱えた。また、各日曜日の共同祈願で、順次小冊子の中の祈りを唱えることになっている。(若井 誠)

アへの祈りをおこなない、その後

「日常生活における信仰 若者と共に考える」

ロゴス研究所主催 晴佐久昌英神父講演会

2月12日(月)、高田寺教会の晴佐久昌英神父を講師に招き、「日常生活における信仰」をテーマに、特に、これから人生の岐路に立つ青年に向けて話をしていた。

会場に集まったのは青年ばかりか、中高年の方が多かった。約300名が参加し、会場となった北仙台教会聖堂はほぼいっぱいになった。

第1部が講演、第2部は、晴佐久神父と、3名の青年のパネルディスカッションが行われた。青年たちが「人生の選択」を決めたときの経緯を話し、神父さまからそれぞれに、その体験について、「秘跡」、「摂理」、「召命」というキーワードが提示され、神との関わりを教えられた。



高田寺教会は、4年近く前、晴佐久神父が赴任して以来、毎年100名以上の受洗者があるといふ。

第1部の講演は、「神が望みならば、なんだってうまくいく」といふこと、あなたも「福音宣言」をやってください」といふことが中心となっていた。

『あなたを選んだのは神だ』といふのが、きょうのテーマです。神におできにならないことは何ひとつない。どんな困難な状況でも、自分がここにいていふことが恵みであって、その現実を神さまがおつ

くりになったもの。恐れや理想は人間がつくったもので、そんなものには意味はない。神のみこころとは違ふ!

青年たちは、自分の弱さ、才能のなさ、ふしだらさなど、いろいろなものを抱えて、もっと清くならなきゃ、もっと立派にならなきゃ、もっと信仰深くならなきゃと思っている。あなたはそのあなたを生んだのは神、そのあなたを今日まで生かしたのも神。そのあなたに可能性を開いたのも全部神で、あとは、このわたしを神が愛してくださっているから、このわたしを神が用いてくださるから必ずうまくいくと信じていること。わたしは司祭になって20年、ほんとに生き生きワクワクしながらやってきた。

今ここに、神がわたしを立て、今、わたしの口からあふれ出てくるひと言ひと言を求めている人がいる。そして、そのひと言で救われる人を、神が今ここに招いた。だから、わたしが口を開けば、神さまがはたらく。そのことを本気で信じて語れば、神がわたしたちを会わせ、何かすばらしいことになさうとしておられるに違いない。神が望みなら、なんでもうまくいく。神が望みになった世界にわたしは今日も神の望みのままに生かされているという現実から

出発することが大切。

わたしは、最近、講演会を控えて、一司祭として、与えられた教会で肅々と「秘跡に奉仕する者」でありたいと思っている。それは神がわたしに与えた「ミッション(使命)」であると思っている。晴佐久という司祭は、秘跡に奉仕する。秘跡とは、今、神がはたらいておられることの『目に見えるしるし』、『ミサ』と『洗礼』はその頂点だからそれを一番大事にすることで、ほかのこともみんな豊かになっていくと信じている。高田寺教会では、わたしが赴任した4年前から、秘跡を中心にした教会としていきましょと信徒に呼びかけ、典礼委員会をつくり、入門係を募って、典礼にみんなを招く教会としてスタートした。

『よく来たね、もうここまでくれば大丈夫。大変だったね。安心してください。洗礼があなたを救います。神様はあなたと共におられます。神があなたを愛してここまで導いたし、これからすばらしいことをしてくださうとしている。わたしはそれを信じているし、あなたにも信じてもらいたい。』これを「福音宣言」とわたしは呼んでいる。

誰かを救いたいと思ったとき、自分も救われる。福音宣言したとき、わたしは生まれてきてよかったですと思えるはず。すべてのキリスト者がこの福音宣言をする使命を必ずかっている。みなさんも福音宣言をやってみてください。神がはたらくならば、すべてうまくいくと信じて、口を開い

てください。ことばとは限らず、手を握るのもいい。そのときに驚くべきことが起こってみんなはびっくりするはず。自分には不向きとか、わたしなんかにはとか、勝手に思い込んでいる人がいるけど、神はそのあなたを使いたいのに、なぜあなたは神の選びを、神の夢を信じられないのでしょうか。』

2007年度司祭異動

(2007年4月1日付)

- 青森県
 - デューベ・シル 弘前教会、五所川原教会主任兼任(弘前主任)
 - エノ・フオーレ 黒石教会主任(五所川原教会主任兼任を解かれる)
 - 岩手県
 - 田中丈夫 盛岡地区モテラートル十井 勝啓 盛岡地区担当(モテラートルを解かれる)
 - 宮城県
 - 氏家 和仁 仙台中央地区モテラートル

司教日程

- 3・11 教区活性化研修会(青森)
- 12 教区財政問題協議会
- 13 司教協議会
- 16 仙台日呂呂女子大学卒業式
- 21 宣教司牧師協議会 定例会
- 24 オタク愛護会 誓願式
- 26 教区責任役員会
- 4・4 聖香油ミサ
- 5 主の晩餐
- 6 主の受難
- 8 主の復活
- 10 司教評議員会 司祭団役員会
- 21 宣教司牧師協議会
- 23 教区司祭団日例会

告知板

- 【テゼの祈り】
 - 日時 3月9日(金)
 - 午後7時~午後8時30分
 - 場所 松木カトリック教会
 - 連絡先 定方 一悦 024-545-6851
 - Sr マーシエ 024-534-4412
 - 主催 松木カトリック教会
- 「ごみごみ」の会
 - *「テゼの祈り」は、フランスのテゼ村ではじまった歌のお祈りです。歌が苦手な人でも大丈夫、心静かなひとときを一緒に過ごしてみませんか。
 - 【春の後藤寿庵豊作大祈願祭】
 - 後藤寿庵の遺徳を偲び、豊作を祈るこの祭りに皆様の「ご参加」を心からお待ちしております。
 - 日時 2007年5月20日(日)
 - 午前10時
 - 場所 岩手県奥州市水沢福原 寿庵廟前
 - 水沢教会 春庵祭実行委員会

- ボルデック・C・エヌ 仙台中央地区担当(モテラートルを解かれる)
- 渡辺 彰宏 仙台中央地区担当(宮城県南地区モテラートル)
- 小野寺洋一 宮城県南地区モテラートル
- マルティネス・ホアン 宮城県南地区担当(会津地区担当)
- 川井 啓 古川教会管理(古川教会協力)
- 和野 信彦 (古川教会主任代行を解かれる)
- 福嶋 舟山 亨 会津地区協力(青森本町教会、浪打教会 助任)

パソコンによる「要約筆記」

昨年の「降誕祭ミサ」で初デビュー

元寺小路教会 今田 みゆき

私の「要約筆記」との出会い
は、昨年9月の元寺小路教会で
行われた病障連の講演会でし
た。手書きとパソコンそれぞれ
の要約筆記者が、講演者の話を
ひっきりなしに文字にして映
し出し、それは見事でした。
「要約筆記」とはいわば文字に
よる同時通訳のようなもので
す。

私はその講演で、「人生の途中
で聴力を失った方（中途失聴
者）の多くは手話が理解できな
い」という現実を知りました。
難聴者には手話さえあればそ
れで十分という認識が一般的
ですが、それは事実ではないの
です。私はパソコンの方に興味
を持ったのですが、質問してい
るうちにプロジェクターとス
クリーンとノートパソコンが
2台あれば、あとは動作ソフト
の使用方法を習得すれば、私で
もミサの模様を字幕のように
表示できるとわかりました。
私は降誕祭にこの要約筆記
をぜひ実施したいと思い、まず
エメ神父様に相談しご了解を
いただき、平賀司教様にもし協
力をいただけるようお願いま
した。

待降節に入り
降誕祭の典礼を
パソコンに入力
し始めると、私
は改めてカトリ
ック教会の典礼の素晴らしさ
に心奪われ、「どうか聴こえな
い方々の心に届きますように」
と祈りながら作業をしていま
した。特に奉献文の言葉ひとつ
ひとつに感動しながら深い喜
びに満たされ、主の大きなお恵
みに感謝せずにはいられませ
んでした。

私たちはミサのたびに神父
様方をおして、人間が神に捧
げる最高の賛美と感謝の言葉
を当然のように耳で聞きなが
ら、心でも聴いています。一方
でそれをその同じ場であずか



りながら「その時、ともに」味
わうことができない兄弟たち
がいるのです。そのような方々
の存在を知った時、私は胸がし
めつけられるような痛みを覚
えました。教会も高齢化を迎え、
加齢によって多くの方が難聴
になる現実を考えますと、今後
このようなサービスがますます
必要とされるのではないで
しょうか。

今回の降誕祭では、平賀司教
様やエメ神父様をはじめ、多く
の方々のご理解とご協力をい
ただいて、何とか初めての試み
として実施することができま
した。この場をお借りしまして、
厚く御礼申し上げます。そして、
今後またご理解をいただけ
るなら、実施に向けて努力をさ
せていただきたいと思います。
また、「この「要約筆記」
の技術に対し興味を持たれた
方、ぜひ一緒に勉強しません
か？ もし多くの方のご協力
があれば、司教様や神父様方に
負担をかけずに、より質の高い
技術の提供が可能になるから
です。そうすれば実施できる日
も増えるかもしれません。文字
情報が必要としている兄弟た
ちのためにも、皆様のご理解と
ご協力を切にお願ひ申し上げ
ます。



時々、信徒の
皆さまから
の質問が寄
せられます。
そのご質問にお
答えし、これから、Q&Aの
コーナーを設けることにいた
しました。どしどし、質問を
お寄せください。

意向ミサについて

Q：信徒は、個人的な意向のため
に、ミサをささげていただく
ことができると思いますか？
どうすればいいのですか？
どんな時に意向ミサをお願い
できるのですか？ その時の
お礼は？

A：個人的な意向のためにミサ
をささげていただくことがで
きます。主日のミサの場合には、
意向ミサをささげることがで
きないこともありますので、必
ずしも、希望の日にミサがささ
げられるとはかぎりません。ま
た、何人かの方の意向ミサと一
緒の場合もあるということをお
承知しておく必要があります。

司祭にお願いする時には、専
用の封筒もありますが、普通の
無地の封筒でもかまいません。
通常、封筒の表に「ミサ依頼」
と書き、何の意向かということ
と、ミサをささげていただく希
望の日も表に書きます。そして、

封筒の裏には、依頼主である自
分の名前を書きます。

封筒の中に、謝礼を入れます
が、金額に決まりはありません
それは、ミサがお金で買える
という価値以上のものだからで
す。しかし、具体的には信徒が
困るわけですから、一般に、3
千円以上と言われています。た
だし、払えない方は、前に述べ
たように、いくらでもいいので
す。

どんな時に意向ミサをお願
いできるのかということにつ
いては、いろいろなケースがあ
ります。たとえば、亡くなら
れた方のために、「永遠の安息を
求めて」という意向で、7日目、
49日、1年のご命日……。
病気で手術を受ける前などに、
「健康の恵みを求めて」という
こともあるでしょう。

結婚記念日の何周年にミサ
をささげていただくこともで
きますし、お子さんの入学とか
卒業とかの節目に、神の恵みを
願ってミサをお願いすること
ができます。

簡単に説明しましたが、さら
に詳しいことをお知りになり
たい方は、司祭にお尋ねくだ
さい。



各地から

福島 喜多方教会

本田多喜子さんの言葉

故人を偲んで

佐藤 修 (喜多方教会)

「ちゃんと守られていんだな」「何もしんべ(心配)すつこごねえんだな」。

口を開くと病氣と医者の話しかない彼女が何気なく言ったこの言葉は、私にとって、終生忘れられない言葉となりそだ。「神様が守つてくれる。何も心配することはない」とはカトリックの修養書にも神父さんの説教にもよく出て来る言葉であるが、しかしそんなありふれた言葉でも、本田多喜子さんの言葉となつたとき、何ゆえこんなにも響いたのだろうか。

「おれは心臓が悪くつてペースメーカーを入れてる身体障害者なんだげんじよ(けれど)、目に見えぬ障害ではねえから誰もむせむせ可哀想(なんて言うてくんに)くれな(い)。そんなことを言うの彼女に、私はいつも、困つたことを言つた人だと思つてた。

若い頃からずっと病氣と道連れの人生を送つた人であることを知つてはいるつもりではいたが、つい二ヶ月前(9月)の自宅訪問の際、彼女が「いちいち医者に言つのが面倒くさいから書いた」と言つて見せてくれた病歴をみて、凄まじい人生もあるものだなと思つた。全身のすべとて言つてよいほどの病氣を経験してきた人だつたのだ。そのぐらい

だからいつも会つたび話すのは病氣のこと、体がいつ倒れるかの心配のことだつたのだ。

「すこいねー！この病歴、顔に入れて下げといいたら？ 表彰もんだよ、これは」

などと、その時たいへん不謹慎なことを私は言つてしまつたが、彼女は笑つていた。

いつも、誰にも、会津弁丸出して話す本田さんは飾り気がなく純心にストリートに思つたことを言つて人であつた。どうかホッとするよつなところがあつた。私も彼女の前では無防備に言いたい放題で、言葉を返しては二人でよく笑つた。

7月末、グアダルーペ会の50周年記念式典に出してもよい昔の写真があるから、と言つたので自宅に伺つた際にも、「いつ倒れつかわがんねがら(分らないから)記念式典には、おれは行かねげんじよ(行かないけれど)」と言つた彼女に、「歴代神父のコックをしてきたあなたが出席しないですん？ 20人ものグアダルーペ会神父の前で死んでみつせ(みなさい)、本望だべ」と、私はその時もまた不謹慎なことを言つてしまつた。それでも彼女は「ん、そつたな」と言つていたが、その夜の電話で「やつぱ行ぐことにした」と言つてくれた。記念式典では何十年かぶりに懐かしい



神父さんに会つたといつのに、彼女はまたも自分の病氣のことばかり話しているの、脇で聞いていた私は呆れていた。

そして最後に会つた先月(10月)の第一日曜日のミサの後のお茶タイムにみんなを前に、このたび大変な目に遭つた、といつ話をした。それは体が心配で行きたくなかつたが、何度も来いこいと言つ、横浜の姉のところ、新幹線で行つた折その途中の宇都宮を過ぎたあたりでトイレの前で自分が倒れ、大宮の病院へ救急隊に担がれたといつ、彼女にとつては大事件な話だつたのだ。

また病氣の話がよ、と半分つわの空で聞いていた私だつたが、帰り際に、私を呼び止めて彼女は言つた。「さつき新幹線で倒れた話、したべ(したでしよう)。そんな時、おれの隣にいた人が看護師で、救急隊に預けるまでずっとおれを看護してくつ(ちや)見ていてくれた」だ。倒つちや(とき)倒れたときからの記憶はねえげんじよ(ないけれど)、救急隊に「私は看護師です。分前に倒れました、脈拍数は」と言つてただけ覚えてんだ。おれが倒れたわきに看護師がいたなんて不思議だべ(したでしよう)」。そして私を止視してきつぱり(こつ)言つた。

「修ちゃんちゃんと守られていんだな、何もしんべ(心配)すつこごねえんだな」。

この日以来、本田さんと会うことはなかつた。喜多方教会が発足してから、42年間の彼女とのお付き合ひの中で、これが私への最後の言葉となつた。

四十代の半ばに、わずか数年の結婚生活を経験されただけで、ずっと単身で過ごされた本田さんの人生は、病氣と孤独の人生であつたと思う。それはまた、不安と恐れと道連れの人生であつたとも言えるのではない。不安と恐れ、の人生は私自身、人生でもあつた。鏡としてお互いを映し出してはいたのではないかと、彼女の死後思つた。しかし私への最後の言葉は、あのときの明るい目嬉しそつな声と一緒に、私の宝物となつた。

ちなみに訃報を聞いた11月12日のミサの板垣師の説教は、真の自由な生き方は、信仰の上に成り立つといつもので、私は深く感じ入りながら拝聴することができた。一生を走り続けてきた彼女がずっと握つていた「信仰」といふバトンを、最後に手渡されたよつな、何か大きな責任のよつなものを、今の私は感じてしまつた。本田多喜子さんを通して、神の声を聞いてしまつたよつな、身の引き締まる思いの中で、彼女の折々の言葉を偲んで、

追記 葬式は要らない、死んだらすぐに福島医大に献体して欲しい、といつ彼女の意向で、遺体はその日のつちに福島へ搬送された。(喜多方教会「教会だより」から)

新刊案内

『どこから笑顔が、ホスピスでいのちに寄り添つて』

著者 赤井聖子 / 発行 女子パウロ会 / 定価 1100円 + 税

本書は、「光ヶ丘スベルマン病院」のホスピス病棟で看護師をしている著者が、それぞれのかわつてきたゲストの方々、そのご家族の方々と、思い出を温かく綴つたもの。

光ヶ丘スベルマン病院では、ホスピスの患者さんや「ゲスト」と呼んでいます。赤井さんは、700人以上のゲストの方のお世話をしてきたベテラン看護師さんです。ゲストの方が、最期までその人らしく、最高の状態にいられるよつに手助けし、「ご家族の方々はゲストの方との悔いのないかわりを生かせるよつに励ます赤井さんと他の看護師さんの働きには、眼を自張るものがあります。ホスピスについてよく知らない方々、また実際にご家族や身近で介護に携わつていらっしゃる方々には、非常に参考になるよつです。

よつ、季節感あふれる文章が、「ホスピスとは」「不安と恐れ」「旅立ち」「寄り添つ心」「家族を育て」「笑顔と章分け」各章の中に読みやすい文章が約2ページごと区切られていて、本を開けるとどのページから読んでも、赤井さんのやさしさ、誠実さ、真剣さが伝わつてくるよつです。

いのちの尊さ、人間のすばらしさを改めて感じさせたい一冊です。



どこから笑顔が、ホスピスでいのちに寄り添つて

活動紹介

ぶどう畑への呼びかけに添えて
 仙台病障連2006年度事業
 仙台司教区病者障害者団体
 連合会(清水文雄会長)は、自ら
 も弱い立場に置かれていなが
 ら、毎年度「弱い立場の人々と
 共に歩む」事業を展開して来て
 おります。

私たちは、自分の置かれてい
 る弱い立場は、それぞれ異なる
 ものであっても、弱さを持つゆ
 えに他人の弱さもより身近な
 ものとして共感、共有できるわ
 けです。

私たちは、「耳の不自由な方
 のために何が出来るか」を課題
 として取り組み、今年度で3年

私の気分転換

佐々木 由美(塩釜教会)
 お気に入りのCDを数枚カ
 バンに入れ、長距離ドライブ。
 一人旅の気楽さで、名所旧跡
 をぶらり……。実はこれ、
 勤務時間中のことなのです。
 仕事のエリアが青森から長野
 までという広範囲なので、移
 動中の時間は、格好の自由時
 間です。しかし、長期出張に
 なったりするときは、さすが
 に気持ちが悪くなる。さすが
 ものです。そんなある年の聖
 週間、新潟県柏崎教会を訪れ
 ました。ミサにあずかりホテ



目となりました。

「障がい者の重荷をともし担
 える日をめざして」を発表され
 てから10年の節目の年にあた

ルに戻ったとき、不思議な安堵
 感を覚えたのです。それ以来、

教会ガイドブックを車に積み
 込み、旅先の教会を訪問する様
 になりました。長野の松本教会
 では、最近まで使われていた司
 祭館が文化財として移築保存
 されていたり、岩手のある教会
 では、畳敷きの聖堂だったりし
 ます。また、その教会のお知ら
 せを読ませて頂いたりするの
 もなかなか楽しいものです。旅
 先のほんの20分位の時間で
 が、聖堂の中の静寂な
 空間は、私にとって
 すばらしい一瞬な
 のです。



るのも何かの縁に相違ないと
 思われます。

連合会の組織には、会長の所
 属する「福島県グロリア会」。
 病者を主体とする祈りの会「カ
 ソック仙台」。視覚障害者を主
 体とする「アンジェラスの会」。
 弱さと共に歩む会「岩手カトリ
 ック障害者協議会」の4団体で
 構成されています。

「耳の不自由な方のため何
 ができるか」の課題に取り組ん
 だ1年目は、難聴者の方々が社
 会に求めていることは何か、か
 ら学ぶことにして、難聴の方を
 講師にして講演会を主催し、そ
 の方々の孤独感、愁傷感を理解
 することができました。

「皆さんを理解するには、何
 が最も必要か」との質問に対し
 て、「心を広く受け入れてくれ
 ることです」との答えは今でも
 出席者の心に響いていること
 ばです。

2年目の昨年度は、会議や講
 演の際によりよく内容を理解
 するためのサポートをしてく
 ださっているボランティアの
 会「要約筆記通訳」さんだ
 の方々に講演と実演をお願い
 しました。

3年目の今年度は教会の信
 者間で、ミサや、説教の内容を
 伝えるために要約筆記を練習
 しようと、要約筆記通訳「せん
 だい」の会長寺嶋礼子さんや

「文字の都せんだい(パソコン
 要約)」の会長樋口智美さんな
 ど会員の方々の協力をいただ
 き、「手書き・パソコン書きと
 リミニ講座」を開催することが
 できました。

当日は元寺小路教会信徒ホ
 ールに45名の参加を得ること
 が出来ました。担当司祭の土井
 勝吾神父、木村国基神父をはじ
 め、参加者の多くの方々が困難な
 実演に挑戦していたのが印象
 的でした。写真。

主催者はもとより、神の呼び
 かけに応じて参加した方々全
 員が、豊かな恵みをいただいて
 会場を後にしました。(病障連
 事務局 三田英子)

修道院紹介

聖ウルスラ修道会

塩町修道院
 八戸市柏崎にある聖ウルス
 ラ塩町修道院は、塩町教会に隣
 接し、今年で55年程になりま
 した。

1970年、八戸聖ウルスラ
 学院が郊外に移転した後、残さ
 れた校舎の一部に設けられた
 「聖ウルスラ文化センター」は、
 地域社会に向けての文化施設
 として、また宣教活動の場とし
 て活用されてきました。

現在、当センターでは、外国
 語教室(英・仏)、器楽教室、聖

書研究会(入信講座を含む)、
 心理相談室などを開いて地域
 の方々と触れ合い、宣教に努め
 ています。さらに、文化センタ
 ーの大切な宣教活動としてい
 るのが、フィリピンを中心とす
 る移住労働者支援です(写真)。
 人権侵害などに苦しむフィリ
 ピン女性が助けをもとめて来
 るようになったのは、1988
 年ころで、その後本会のSr.メリ
 ーを中心とする活動が行われ
 ています。

本修道院の構成員は、5名で、
 老齢化も進み、活発な活動も難
 しくなりましたが、それぞれ、
 病院、家庭訪問、バザーのため
 の手芸品作りの指導、教会組織
 の中でのお手伝いなどに励ん
 でおります。

年齢を考えた宣教のあり方
 を考えるこのごろです。

(Sr.竹内和子)

